

## 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割

篠崎 貴徳

コミュニティ学習センター（Community Learning Centres : CLC）とは、地域開発および人々の生活の質向上のためのさまざまな学習機会を提供するノンフォーマル教育施設である。村落または都市部において設置され、通常地元の人々によって設置、運営される。あらゆる人々に対して学習の場を提供しており、施設内では識字教育や職業訓練のような、地域住民のニーズに応えたプログラムも実施している。CLC の設置・普及は、主にユネスコが推進しており、現在までにアジア・太平洋地域の 24 か国に導入されている。

東南アジア諸国は、CLC の設置を特に積極的に行っており、その数は年々増加傾向にある。CLC 設置支援機関としては、ユネスコを中心とした国際機関から、日本の NGO 団体まで多岐にわたる。また CLC が日本の公民館を 1 つの参考例として普及してきたこともあり、近年、CLC 関係者の日本の公民館の視察や交流活動が行われていることに加えて、CLC の設置経緯や教育活動全般に関する研究は、増加傾向にある。しかし、日本では CLC の図書館としての役割を取り上げた研究は行われていない。そこで本研究では、東南アジア諸国の CLC で実施される識字教育を中心に調査し、CLC が図書館機能を持つ教育施設として、地域や地域住民に果たす役割を明らかにする。

本研究では、タイ、ベトナム、インドネシア、ラオス、カンボジアを調査対象とする。文献調査とウェブサイト調査を通して、各国の CLC 設置に関連した法律・政策、CLC の設置過程、及び主な活動内容を明らかにした。続いて、東南アジア各地で CLC 設置の支援活動を実施している機関である、ユネスコ、ユネスコ・アジア文化センター、日本ユネスコ協会連盟の職員に対するインタビュー調査を行い、各国の CLC の設置状況や、設置支援活動の内容、CLC における図書館の機能を中心に尋ねた。

調査の結果、5 か国において、CLC は地域形成を視座に入れ、識字教育をはじめとした、地域住民の生活の質の向上を支援する役割を担っていることが明らかとなった。タイ、インドネシア、ベトナムは、法律によって CLC を規定しているため、政府主導による設置が進められ、コンピュータの導入も始まっている。一方で、ラオス、カンボジアの CLC は、国家レベルでは計画段階にあるため、NGO の支援活動を中心に、地域住民が主体となった教育活動が進められている。CLC 内の図書館という観点からは、住民の生活に即した資料の貸出しや、自己学習のための場所としての機能が確認できた。

本研究は、東南アジア 5 か国の CLC の設置過程や制度に関する概略的な調査にとどまっております。地域住民の詳細な図書館の利用実態については、言及していない。したがって、今後も東南アジア諸国の CLC における図書館を対象とした、継続的調査の実施が望まれる。

（指導教員 吉田右子）